

題材名「エイズを正しく理解しよう」

目 標

- ・人間が病原体から体を守っているしくみを知る。
- ・エイズについて正しく理解する。

コンピュータを活用する利点

プロジェクターを使って資料を提示することにより、視覚的にわかりやすく理解させることができる。また、興味・関心を持たせ、集中して授業に参加させることができる。

授業の流れ

ひとにうつる病気にはどんなものがあるか発表する。

人間には病原体から体を守る働きがあることを知る。

エイズがどんな病気なのか、健康なときと比べながら理解する。

エイズウイルスの特徴を想起しながらワークシートをチェックし、日常生活においてエイズは感染しないことを確認する。

もし、エイズに感染している人が身近にいるとしたらどのように接したらよいか考える。

本時の学習を振り返り、学習のまとめを書く。

ICT 活用場面

プロジェクターで「健康なときのからだの中」のようすを提示した。病原体が体の中に入ると、白血球が病原体をやっつけること、免疫ができ、次に病原体が入ったときにすばやくやっつけることができることを視覚的に理解させた。

一方、それと対比させて、エイズウイルスに感染したときのからだの中のようなようすを提示した。エイズウイルスにとりつかれた白血球は、攻撃することができないこと、免疫ができないこと、そのため病原体をやっつけることができず、どんどん病原体が増えてしまうことを視覚的に理解させた。

その後、エイズウイルスは、エイズに感染している人の血液や精液などの中にいること、エイズウイルスは、消毒や熱に弱いことなどを提示し、日常生活ではエイズは他人に感染しないことを確認した。

最後に日常生活の様々な場面を提示し、エイズに感染するか感染しないかを考えさせた。どの場面でもうつらないことを確認し、日常生活ではエイズは感染しないことを理解させた。

成果と課題

プロジェクターで資料を提示することにより、児童が興味を持って学習に取り組んでいた。教科書ではすべての情報が一度に目に入るため、焦点がぼけてしまいがちだが、プロジェクターで一つ一つ提示することにより、より集中して学習に取り組むことができた。プロジェクターで提示すると、児童の視線の移動が少なく済む。特別支援の必要な児童にとっても、集中して学習しやすくなる。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン1台、プロジェクター
使用ソフト名	PowerPoint
使用教室	普通教室